

## 4. ピオーネのトンネル栽培におけるシアナミドの処理適期（情報）

## [要約]

ピオーネのトンネル栽培において、発芽を早めるために行うシアナミド処理は12月下旬が最も効果が高く、この時期より早くても遅くても効果が劣る。

研究室名	果樹研究室	連絡先	0869-55-0276
------	-------	-----	--------------

## [背景・ねらい]

トンネル栽培においてピオーネの発芽を早めることは、熟期促進や労力分散に有効である。そこで、発芽促進を目的に利用されるシアナミド処理の時期を検討する。

## [成果の概要・特徴]

1. シアナミド1.0%液に浸透性の高い展着剤を加用し、せん定前は結果枝基部、せん定後は結果母枝全体に塗布又は散布した。
2. 平成14年12月下旬から平成15年3月下旬まで1か月間隔で処理時期を変えて比較した結果、処理時期が最も早い12月下旬処理でピオーネの発芽が最も早く、処理時期が遅いほど発芽が遅かった（図1）。
3. 平成15年は処理時期をさらに早めて11月中旬から12月下旬まで2週間間隔で処理時期を変えて比較した結果、処理時期の最も遅い12月下旬処理で発芽が最も早かった（図2）。
4. 発芽促進効果が高かった12月下旬処理によって発芽期が約4日、開花期が約2日前進した（図1、2、3）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 発芽が早くなるため、晩霜害が心配される地域では利用を控える。
2. 開花期が早まるため、花穂管理及びジベレリン処理労力が分散できる。
3. 県南部のトンネル作型で盆前出荷をねらう場合に有効であるが、着果量が多いと収穫時期が遅れてシアナミドの発芽促進効果による前進効果は相殺される。
4. 処理時の防護具着用や飲酒の厳禁等、本剤使用上の注意事項を厳守する。

[具体的データ]

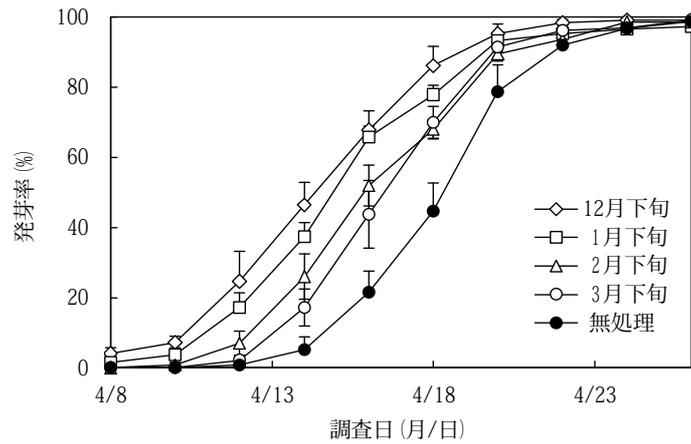


図1 トンネル栽培ピオーネの発芽に及ぼすシアナミド処理時期の影響 (平成15年)  
注) 垂線は標準誤差 (n=4) を示す

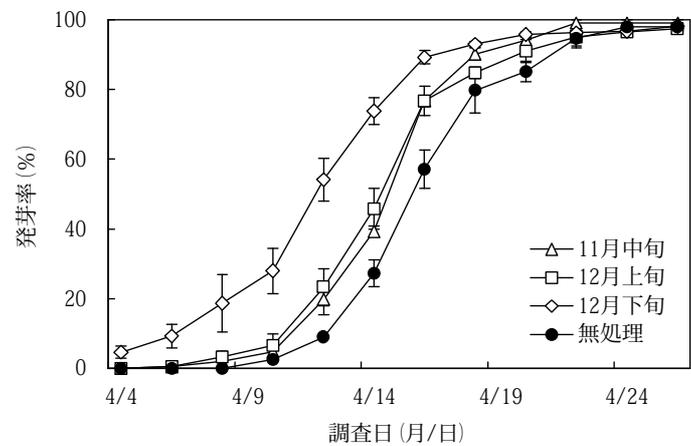


図2 トンネル栽培ピオーネの発芽に及ぼすシアナミド処理時期の影響 (平成16年)  
注) 垂線は標準誤差 (n=3) を示す

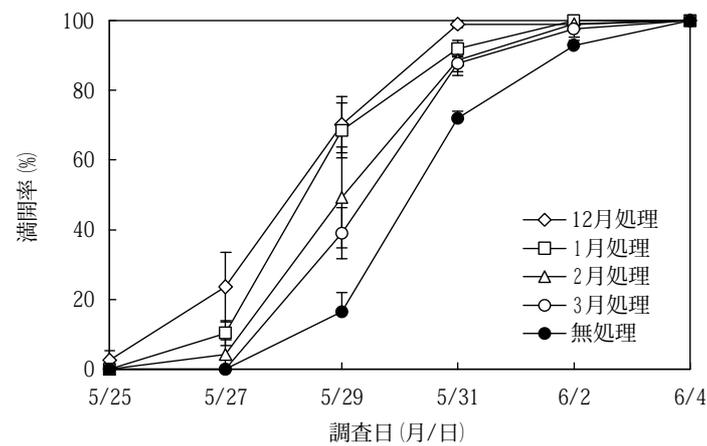


図3 トンネル栽培ピオーネの満開に及ぼすシアナミドの処理時期の影響 (平成15年)  
注) 垂線は標準誤差 (n=4) を示す

[その他]

試験研究課題・事業名：植物調節剤実証試験

予算区分：県単

研究期間：平成15～16年度

関連情報等：平成10年度試験研究主要成果「シアナミド処理によるブドウの発芽安定（参考事項）」